

ヘビノボラス		<i>Berberis sieboldii</i> Miq.	絶滅危惧Ⅱ類
		メギ科	
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。		写真(大塚英樹)
形態の特徴	幹の高さは50-80cmの落葉広葉低木。葉はやや革質で倒卵形～倒披針形、先が棘状になった細かい鋸歯がある。花期は5月ころ。短枝の先から垂れ下がる総状花序に径約6mmの黄色の花を数個つける。液果は径約6mmのほぼ球形で、赤熟する。		
生態的特徴	丘陵帯から山地帯の湿地に生える。山裾から水が滲み出ているような貧栄養の場所に多く見られる。		
分布状況	日本固有の種。本州(中部地方南西部、近畿地方)、九州(宮崎県)の暖帯に分布する。県内では県南の東部及び中南部に生育する。		
減少要因	本種の分布域は県南の東部及び中南部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 木本Ⅰ」平凡社(1989)		

文責:佐藤和良